

# 経済思想史(2013年度冬学期)参考文献

2013年10月25日  
小野塚 知 二

## I 全体に関わるもの

- 1 岡田与好『経済的自由主義』東京大学出版会、1987年.
- 2 有江大介『労働と正義 ―その経済学的検討―』創風社、1990年.
- 3 中西洋『〈自由・平等〉と《友愛》―“市民社会”；その超克の試みと挫折―』ミネルヴァ書房、1994年.
- 4 稲葉振一郎『リベラリズムの存在証明』紀伊國屋書店、1999年.
- 5 楠井敏朗『富、権力、そして神 ―社会環境論序説―』日本評論社、2002年.
- 6 小野塚知二編著『自由と公共性 ―介入的自由主義とその思想的起点―』日本経済評論社、2009年.
- 7 小野塚知二「日本の社会政策の目的合理性と人間観 ―政策思想史の視点から―」『社会政策』第3巻第1号、2011年6月、pp. 28-40. この元原稿=より長い版は以下よりダウンロード可能  
<http://www.onozukat.e.u-tokyo.ac.jp/onozuka20101031.pdf>.

## II おもに前近代に関わるもの

- 8 マルク・ブロック『封建社会』I・II、みすず書房、1973年.
- 9 石坂昭雄ほか『新版 西洋経済史』有斐閣双書、1976、85年.
- 10 山内進『略奪の法観念史 ―中・近世ヨーロッパの人・戦争・法―』東京大学出版会、1994年.
- 11 小野塚知二・沼尻晃伸編著『大塚久雄『共同体の基礎理論』を読み直す』日本経済評論社、2007年.

## III おもに近世に関わるもの

- 12 岡田与好『イギリス初期労働立法の歴史的展開 増補版』お茶の水書房、1961、78年.
- 13 エドワード・P・トムスン『イングランド労働者階級の形成』青弓社、2003年.
- 14 ジョージ・リューデ/古賀秀男ほか訳『歴史における群衆 ―英仏民衆運動史1730～1848―』法律文化社、1982年.
- 15 ジョージ・リューデ/古賀秀男ほか訳『イデオロギーと民衆抗議 ―近代民衆運動の歩み―』法律文化社、1984年.
- 16 J. G. A. ポーコック/田中秀夫訳『徳・商業・歴史』みすず書房、1993年.
- 17 新村聡『経済学の成立 ―アダム・スミスと自然法学―』御茶の水書房、1994年.
- 18 野原慎司『アダム・スミスの近代性の根源 ―市場はなぜ見出されたのか―』京都大学学術出版会、2013年.

## IV おもに近代に関わるもの

- 19 カール・ポラニー『大転換 ―市場社会の形成と崩壊―』東洋経済新報社、1975年.
- 20 岡田与好『独占と営業の自由 ―一つの論争的研究―』木鐸社、1975年.
- 21 岡田与好『自由経済の思想』東京大学出版会、1979年.
- 22 ピエール・ロザンヴァンロン/長谷俊雄訳『ユートピア的資本主義 ―市場思想から見た近代―』国文社、1990年.
- 23 椎名重明編『<sup>コレクティヴィズム</sup>団体主義 ―その組織と原理―』東京大学出版会、1985年.

- 24 小野塚知二『『集团的自助』の論理 —19世紀イギリス労働者上層の文化—』『歴史評論』通巻第465号、1989年1月、pp. 63-83.
- 25 小野塚知二「共済団体の慈善機能 —19世紀後半イギリス労働組合の『慈善基金』に注目して—」東京大学『経済学論集』第78巻第1号、2012年4月、pp. 16-40.
- 26 小野塚知二[書評]岡村東洋光・高田実・金澤周作編著『英国福祉ボランティアの起源 —資本・コミュニティ・国家—』『西洋史学』第247号、2013年3月、pp. 62-64.
- 27 辻内鏡人『アメリカの奴隷制と自由主義』東京大学出版会、1997年.
- 28 安藤隆穂『フランス自由主義の成立 —公共圏の思想史—』名古屋大学出版会、2007年.
- 29 田中拓道『貧困と共和国 —社会的連帯の誕生—』人文書院、2006年.
- 30 歴史学研究会編『資本主義は人をどう変えてきたか』講座世界史4、東京大学出版会、1995年.
- 31 歴史学研究会編『「近代」を人はどう考えてきたか』講座世界史7、東京大学出版会、1996年.

## V おもに世紀転換期と現代に関わるもの

- 32 毛利健三『イギリス福祉国家の研究 —社会保障発達の諸画期—』東京大学出版会、1990年.
- 33 権上康男・廣田明・大森弘喜編『20世紀資本主義の生成—自由と組織化—』東京大学出版会、1996年.
- 34 権上康男『新自由主義と戦後資本主義』日本経済評論社、2006年.
- 35 雨宮昭彦/J. シュトレープ編著『管理された市場経済の生成 —介入的自由主義の比較経済史—』日本経済評論社、2009年.
- 36 栗田啓子『エンジニア・エコノミスト —フランス公共経済学の成立—』東京大学出版会、1992年.
- 37 ピエール・ロザンヴァンロン/北垣徹訳『連帯の新たなる哲学 —福祉国家再考—』勁草書房、2006年.
- 38 小峰敦編『福祉国家の経済思想 —自由と統制の統合—』ナカニシヤ出版、2006年.
- 39 西沢保ほか『経済政策思想史』有斐閣、1999年.
- 40 小野塚知二「労使関係政策—ヴォランティアリズムとその変容—」毛利健三編『現代イギリス社会政策史 1945—1990』、ミネルヴァ書房、1999年4月、pp. 323-393.
- 41 デヴィッド・ハーヴェイ/渡辺治監訳『新自由主義 —その歴史的展開と現在—』作品社、2007年.
- 42 橋本祐子『リバタリアニズムと最小福祉国家 —制度的ミニマリズムをめざして—』勁草書房、2008年.
- 43 ノルベルト・フライ『1968年 —反乱のグローバリズム—』みすず書房、2012年.
- 44 油井大三郎編『越境する1960年代 —米国・日本・西欧の国際比較—』彩流社、2012年.

## VI 経済学思想史・経済学史

- 45 小柳公洋・岡村東洋光編『イギリス経済思想史』ナカニシヤ出版、2004年.
- 46 小田中直樹『ライブ・経済学の歴史 —〈経済学の見取り図〉をつくろう—』勁草書房、2003年.
- 47 高哲男編『自由と秩序の経済思想史』名古屋大学出版会、2002年.
- 48 服部正治・西沢保編著『イギリス100年の政治経済学 —衰退への挑戦—』ミネルヴァ書房、1999年.
- 49 永井義雄編著『経済学史概説 —危機と矛盾の中の経済学—』ミネルヴァ書房、1992年.
- 50 早坂忠編著『経済学史 —経済学の生誕から現代まで—』ミネルヴァ書房、1989年.
- 51 大田一廣・鈴木信雄・高哲男・八木紀一郎『新版 経済思想史 —社会認識の諸類型—』名古屋大学出版会、2006年.